

公益財団法人かすがい市民文化財団情報誌

フォーラムプレス

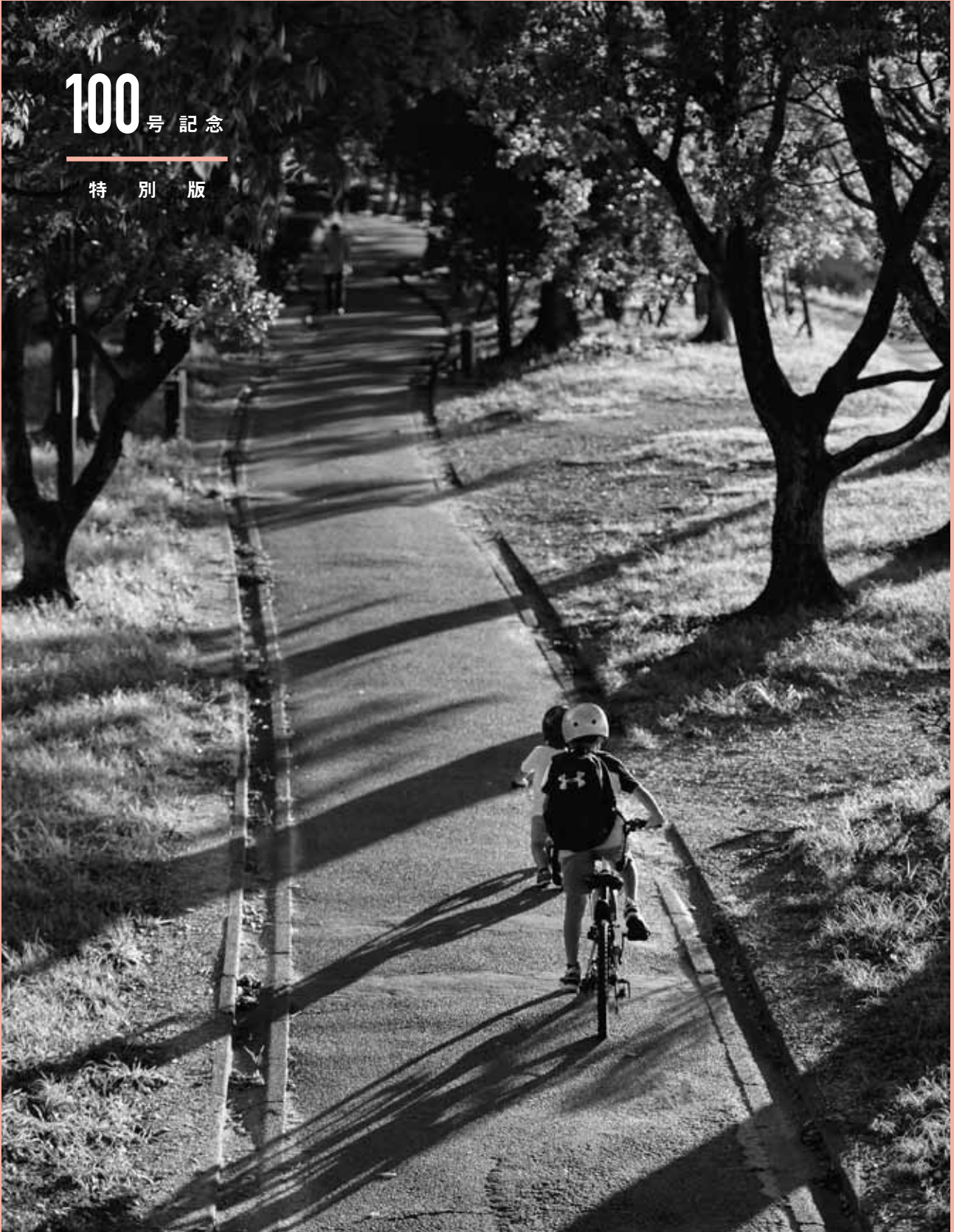
FORUM PRESS

100^号
10-12^{月号}
2020

春日井の文化をつむぐ

100 号 記念

特 別 版



「写真を通じて、人間や社会を知りたい」

有名な人の作品を見るときは、「すごいな!」と思うより、「あ、このくらいいいんだ。自分もやっていけるな」と親近感を抱くポイントを探します。



あの人と、春日井と

写真家／メディア表現

山田 亘

KO Yamada

名古屋市出身。愛知在住。米国オハイオ州立オハイオ大学 (BFA) 及びオハイオ大学大学院芸術学部写真学科を卒業後、アメリカで活動を開始。1993年、アメリカ写真協会主催の全米大学院選抜セミナーフェロシップ20名に選ばれる。97年、東京都写真美術館での国際写真ビエンナーレから日本で活動を開始。写真作品やメディアプロジェクトは日本国内のみならず、海外でも幅広く展示、公開されている。2012年より写真教室PACell代表として、同スクールの国際展も数多くプロデュースしている。長者町スクール・オブ・アーツ代表。

父親の写真機材に興味を持ち、幼い頃からカメラに親しむも、写真家の道へ進むとは思っていなかった。大学浪人になったのを機に、米国への留学を決意。入学後、せっかくなら好きな事をやろうと選んだ写真学科は、芸術写真を教えるコースで、商業写真の世界とは違う世界だった。卒業際に選ばれた全米大学院の選抜セミナーに参加したことで、芸術写真の世界は見渡せる範囲にあることを知る。

帰国後、作品作りの傍ら、写真を教えることを生業に。大学勤務のかたわら、現在も社会人向けの写真教室を名古屋の長者町で運営している。集まってくるのは、“写真の道に進まなかった自分”を連想させるような大人たち。山田さんは彼らに、“芸術写真の世界は近くにある”ことを伝えたいと語る。「写真の魅力は“見立て”で作品を作っていくことです。美術作家のマルセル・デュシャンが、便器を作品だと言って展示したのと似ているかも。自分が面白いと思ったものを撮る。何も映ってないじゃないかと言われても、自信をもって言葉にすることで、物の見方が育ってくる。そうすれば、写真を始めたばかりでも興味深い作品を撮れるんです」。モチベーションが高い生徒たち。「彼らに加わることで、写真の世界はもっと豊かになる。僕も仲間が多い方がいいし」と嬉しそうに語る。帰国後、留学時代の友人がいたという縁で最初に住んだのが春日井。本誌の表紙写真を撮影することになったのも、文化フォーラム春日井での展示がきっかけだった。「表紙写真として春日井を撮影する時は、住んでいる人たちの頭の片隅にある原風景を撮りたいと思っています。写真を見て、自分の中を掘り起こすきっかけになればいいですね」。

テキスト・写真＝奥村加奈子

写真家の眼

N°027

今では誰もが簡単に写真を撮れるけれど、写真家と言われる人の写真は、なんかちょっと違う気がする。彼／彼女らはどんなふうに、見て、切り取るんだろうか。春日井にまつわるもの、という切り口で始めた表紙写真プロジェクトです。



今号の表紙 on the cover

PHOTO 山田 亘
KO YAMADA

いろんな意味での「分岐点」について考え、春日井市内のY字路を地図で探し、そこに至るまでにに出合ったシーンを撮りました。スポット豪雨で浮世絵のような場面に出合ったり、空港の周りでは夏の名残の中、街を俯瞰するいろんな鳥たちにも出合いました。雨後のキラキラした地面の輝きや、秋の気配。ここに暮らす人の頭の隅のどこかにある風景を巡る散歩は、次の曲がり角へ。

発行＝公益財団法人かすがい市民文化財団
486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44
文化フォーラム春日井 TEL.0568-85-6868
編集＝公益財団法人かすがい市民文化財団
制作＝211design-meme- Art Director＝鷹巣由佳

FORUM PRESS 100号記念 特別版

CONTENTS

01- あの人と、春日井と「写真家／メディア表現 山田亘」

特集

02- とどけ、言葉

私たちはいつも、言葉に勇気づけられてきた。

加藤登紀子(歌手) 浅田政志(写真家) 林家たい平(落語家)
平井真美子(作曲家/ピアニスト) 茂木大輔(指揮者)
隅地菜歩(ダンサー) 高橋綾子(美術評論家) 西本喜美子(写真家)
宮本益光(オペラ歌手) 七代目 市川染五郎(歌舞伎俳優)
藤井朝子(調律師) あべ弘士(絵本作家) 有門正太郎(俳優/演出家)
本山ゆかり(美術作家) 山下洋輔(ピアニスト) 市山松扇(舞踊家)
服部哲郎(ダンサー) 月岡弘実(Book Gallerytムの庭 店主)
奥村艶子(春日井児童合唱団) 鈴掛真(歌人)

特別対談

07- いま、芸術ができること

子どもたちと、未来のために

南城中学校 校長 堤泰喜
かすがい市民文化財団 エデュケーションアドバイザー 林幸秀
かすがい市民文化財団 プロデューサー 小松淳子

12- 家族写真 マッキーの場合 「星を買った話」

写真＝浅田政志 テキスト＝マッキー

14- 日々の、記録 コロナ禍で出会った人の声を採録しました

18- このマンガを読め! vol.38 “私の物語”を描いたマンガ

19- わたしレポート

読者アンケート

20- 編集部だより フォーラムの意味

21- INFORMATION



FORUM PRESS 52号 2012

作曲家/ピアニスト
平井真美子

平井真美子Piano Diary
2012～対話する時間～
公演日：2012.10.28

ご自身が音楽を担当している「にっぽん縦断こころ旅」がスタートして一年頃のインタビュー。「作曲や演奏を職業にする上での心がけ」にしみ出る、平井さんの愛らしさ。

演奏に限らず、
新しい自分に出会うことって
ドキドキするじゃないですか。
そのためには少しでも工夫をこらし、
新しいことを試してみる。
私なんかはピアノを演奏するというよりも、
ピアノを通じて新しい自分に出会える
ワクワク感を大切にしています。



FORUM PRESS 20号 2007

指揮者
茂木大輔

生で聴く“のだめカンタービレ”の
音楽会Lesson2 フランス音楽特集!
公演日：2007.6.23

当時、茂木さんはN響の首席オーボエ奏者。そんなバリバリの演奏家が音楽を「BGM」だとハッキリ仰ったことに、驚き、救われました。のだめ音楽会初期のインタビュー。

実は僕の作った誰も認めてくれない標語があつてね(笑)。
それは「音楽とは人生のBGMである」っていうこと。
極端にいうと音楽は全てBGM。
一番価値ある演奏でも人生のBGMであつて、
特別な時間の共有っていうのかな、
演奏者、聴衆、聴衆同士が
音楽を通じて時間を共有する。
あくまでもBGMという道具なんです。
音楽にいろんな形で参加して、
自分自身におこる変化を楽しむこと、
なんだと思います。

春日井で開催することの意味は、
ここが歴史的な価値を蓄積する
美術館ではないということ。
今、若者がそうであるように、
迷い苦悩する同時代の鏡として、
この施設があるはず。



FORUM PRESS 53号 2012

美術評論家
高橋綾子

美術系学生選抜展
美系優秀【ビケイユウシュウ】2012
開催日：2012.12.9-24

シリーズで行っていた美術系の学生選抜展について「形として見えにくい、展示会が生み出しているものは？」という投げかけに、当財団の評議員として長く伴走してくださった高橋先生ならではのお答えに勇気づけられました。



FORUM PRESS 53号 2012

ダンサー
隅地 茉歩

セノグラフィカ ダンス公演ダンスで
スタート!! 踊るピクニック in かすがい
公演日：2013.2.11

文化フォーラム春日井の隅から隅まで使ったダンス作品を作り上げてくださったセノグラフィカのお二人。小中学校の先生向けワークショップを行った際に仰った、キメの一言。



FORUM PRESS 44号 2011

落語家
林家たい平

円楽・たい平二人会
公演日：2011.9.10

2011年の東日本大震災から間もない3月半ば。高座直前にも関わらず、丁寧に受け答えして下さった、たい平さん。人と触れあうことへの好奇心と尊厳がにじみ出た一言です。

私たちはいつも、言葉に勇気づけられてきた。 とどけ、言葉

かすがい市民文化財団20周年
FORUM PRESS 100号
特集「20の言葉」
選・コメント=FORUM PRESS編集部

2004年から発行してきたFORUM PRESSでは、多くの方にお時間をいただき、いろいろなお話を伺ってきました。思いのこもった一言に、心動き、ハッとさせられ、勇気づけられてきた私たち。当財団の20周年、そしてFORUM PRESS100号の節目に、20の言葉を再掲します。



FORUM PRESS 67号 2015

歌手
加藤登紀子

50周年記念加藤登紀子
コンサート～終わりなき歌～
公演日：2015.5.24

2015年、歌手生活50周年という記念すべき年。「今、振り返って思うことは？」という問いへの最初の一言。コンサート終了後には、一緒に合唱した市民に駆け寄る姿がとて印象的でした。



FORUM PRESS 97号 2020

写真家
浅田政志

(延期となった)
浅田政志写真展
インタビュー採録：2020.2.7

家族写真を撮る浅田さん、自分史センター相談員の安藤錦風さん、俳優/演出家の有門正太郎さんの3人での鼎談。心の拠り所として見返したくなる写真を第三者にどう届けるか、悩み続けてきた浅田さんならではの言葉。

写真の力も、過ぎ去った大切な時間を
呼び起こせるところにあります。
思い返したくなるだろう、将来のいつかのために、
僕はシャッターを切っているのだと思います。

笑って、生きていることを実感する、
人間にとって大切な部分だと思います。
落語や笑いを通して伝えたいのは、人と人の触れあう楽しさ。
人ってすごく面倒くさいけれど、
笑いあえる楽しさって、人とのつながりからしか生まれませんから。

今までやったことが
ないことを
体験してみたら、
世界がちよつと変わる
と思うんです。
私も、
みんなの視点を知ること
新しい発見がある。



FORUM PRESS 93号 2019
美術作家
本山ゆかり
みんなの美術部vol.1
本山ゆかり先生の「10秒絵クササイズ」
開催日：2019.6.22・7.6

“みんなの美術部”の最初のワークショップは、本山さんが講師を務めました。その名も“10秒絵クササイズ”。高蔵寺生まれの本山さんが小学生から60代までの部員24人に向けた、背中を押す一言。

それぞれ流派を背負っている
ので、自分が一番格好良く見
える形で踊ることを大切に
しているんです。個々が光って
ないと、スクラムを組んでも
光ることはできませんから。



FORUM PRESS 94号 2019
舞踊家
市山松扇
第29回 日本舞踊鑑賞会
公演日：2019.11.4

別々の流派から集まって結成した「弧の会」の代表、市山さんへのインタビュー。あえて振りを完璧に揃えない理由には、他人へのリスペクトが込められていました。

正解を求めることも大事ですが、
自分なりの答えを見つけ出し、
それを個性として
受け入れられるのが演劇です。



FORUM PRESS 76号 2016
俳優 / 演出家
有門正太郎
平成28年度リージョナルシアター事業
演劇ワークショップ
開催日：2016.8.10-13

演劇×自分史プロジェクトが立ち上がる以前、有門さんが子どもたちに向けて行ってくださった夏休みのワークショップ。子どもたちのことを「新しい芸術を生む原石ばかりだった!」と仰ったのも胸に残っています。

自由なことも、無理難題も、
やらせてやろっ、
やらせてやろっ、
つていう人が出てくるん
ですから。
「ここまで来たのは、
やっぱり人のおかげです。」



FORUM PRESS 85号 2018
ピアニスト
山下洋輔
山下洋輔スペシャル・
ビッグバンド・コンサート2018
公演日：2018.6.24

山下洋輔トリオ結成から来年で50周年という時のインタビュー。筒井康隆先生が名付けた「脱臼したボレロ」、この日くつきで病みつきになるボレロの話から、山下さんの本音がポロっと。



FORUM PRESS 85号 2018
写真家
西本喜美子
おばあちゃん、なんぼしょと!?
西本喜美子写真展「みんなで遊ば、楽しかよ」
開催日：2018.5.30-6.10

西本さんが一躍話題になったのは、82歳の時に発表したセルフポートレートがきっかけ。「何かをスタートするのに遅すぎることはない」と仰るそのモチベーションは仲間との存在。生涯現役とはまさに西本さんのこと。

天井の写真ばかり撮っているでしょうね。
たとえ寝たきりになっても、
ベッドの上から
写真が生涯続けます。

音楽があることで、
人は幸せになれるし、
繋がりがあえる。
争いや怒りも消える、
そういう生き方を
良い音楽で
示したいんです。



FORUM PRESS 73号 2016
オペラ歌手
宮本益光
茂木大輔と宮本益光の生で聴く
“のだめカンタービレ”の音楽会
公演日：2016.5.8

のだめ音楽会生誕10周年のトリの「オペラ編」で“黒い薔薇歌劇団”を結成し、魔笛を披露した宮本さん。貴族階級の娯楽だったオペラを自分たちの手の中に持ってこようとしたモーツァルトへのオマージュが伝わる一言。

歌舞伎は昔から地方を
巡業していました。

その目的は、歌舞伎を知っていただくことその他に、
その土地を清めるとか、
祓うという意味も含まれているそうです。
そういう意味でも、多くの劇場を回れるのは
とても嬉しいです。

とにかく耳を休めることは勿論、
空の色や風の向き、
季節の移り変わりを含め、
何でも“感じること”を
忘れないように心掛けています。



FORUM PRESS 74号 2016
歌舞伎俳優
七代目 市川染五郎
(現 十代目松本幸四郎)
松竹大歌舞伎
公演日：2016.7.18

座頭として、地方巡業への意欲を伺ったその答えには、脈々とした日本の伝統を感じつつ、地方の私たちにとっては嬉しい! お言葉をいただきました。



FORUM PRESS 53号 2012
調律師
藤井朝子
昼コン「卵焼きの匂いって!」
本番前のピアノ調律
公演日：2012.10.13

職業としては、財団スタッフと同様、黒子に徹しておられますが、敢えて職を営む上でのポリシーを伺いたく、取材にに応じていただきました。

自分がこの目で見た
ありのままのものと、
それを見た時の感動を
どう融合して絵にするか。
これが俺のテーマ。
他人の撮った映像や
写真じゃなくて、
自分が
この目で
見たものこそが
全てだと思うんだよ。



FORUM PRESS 84号 2018
絵本作家
あべ弘士
絵本作家 あべ弘士展
〜どうぶつ世界旅行〜
開催日：2018.2.24-3.18

「飼育員が絵描きになったんじゃなくて、絵描きが飼育員になったんだ」。あべ弘士さんの実体験は、どれも強烈。だからこそ、全てのエピソードに、これ以上ない重みがあります。悩んで悩んで、この一言を選びました。



かすが市民文化財団 エデュケーションアドバイザー 林幸秀

かすが市民文化財団 プロデューサー 小松淳子

南城中学校 校長 堤泰喜

特別対談

いま、芸術ができること 子どもたちと、未来のために

どんな時代が来ても、子どもたちには力強く前に進んで行ってもらいたい。今を生きる子どもたちのために、できることは何だろう。そんな思いから、この特別対談を企画しました。

インタビュー：山川愛 テキスト：奥村加奈子

20 とどけ、

子どもの本のおもしろさが分かるということは、その人の中にもちゃんと“子どもの自分”がいて、子どものときの感動を覚えているということ。大人/子どもの垣根をとっぴらって、親子がひとつの本について「私はこう思う」「私はそうは思わない」って互角に話すことができる、これが子どもの本の魅力です。



FORUMPRESS 92号 2019

BookGalleryトムの庭 店主 月岡弘実

親子わくわくプログラム KAATのとびだす童話「ねこはしる」 公演日：2019.8.18

「ねこはしる」の原作を読んでみよう!という特集で、絵本や児童書に40年関わる月岡さんに取材しました。親子で絵本を読んだり、舞台を観ることについて、心のこもった温かい言葉をかけてくださいました。

生身の人間が踊る。その『嘘のなさ』が好き 『あなたも踊っていいんだよ!』って 背中を押して、みんなが持つているものを 発揮する手助けができたなら嬉しい。僕にとって『ダンス』は 社会に参加することなんです。



FORUMPRESS 96号 2020

ダンサー 服部哲郎

ヒット曲で踊る! ダンス講座 開催日：2020.2.13-20-27

演劇×自分史プロジェクトにアシスタントとして参加してくれたり、ダンス講座の講師としてお姉さま方から愛される、服部さんこと、てっちゃん。ストレートで熱くて、一生懸命。そこに嘘はありません!

合唱の醍醐味は、 みんなで一つのものを 作り上げること。 一人ひとりが “ヒーロー”なんです。



FORUMPRESS 89号 2018

春日井児童合唱団 奥村艶子

とっておきのクリスマス コンサート2018 公演日：2018.12.23

設立28年目(当時)を迎えた春日井児童合唱団を、四半世紀にわたって裏側から支え続けた奥村先生。「歌うと、お腹がへるのよ」には、納得しかありません。みんなで一緒に歌える日が待ち遠しくなってしまう。



FORUMPRESS 93号 2019

歌人 鈴掛真

掌編自分史 「恋した わたし」特集

全国募集した掌編自分史『恋した わたし』についての特集「あなたにしか書けない恋がある」への寄稿文。「なんで書くの?」というストレートな質問に、自身の経験を交えて書いてくださった、胸がキュっとなる一文です。

（大学生だった十二年前、同性の友人への片思いを、五七五七七の短歌に込めて書き留めました。）
男性でありながら男性に恋をするのを、 周囲に理解してもらおうのは簡単じゃない。 まだ成熟していない青春期では、 自身でそれを受け入れるにも 長い時間が必要でした。 しかし、言葉に残すことで、 荒々しい感情も ひとつの作品となります。



南城中学校 校長 堤泰喜

南城中学校校長。現在、春日井市小中学校校長会会長を務める。中・高・大と合唱部へ入部。文化財団のイベントにも足しげく通う大の音楽好き。元同僚である林先生の作品展はほぼ観に行っているほど、美術も好き。

今こそ、
教育現場にアートを！

堤先生は、「かすがいどこでもアート・ドア（※1）」でアーティスト派遣を積極的に受け入れてくださっています。中でも、ギタリスト・井草聖二さん（※2）のアウトリーチは5年連続で呼びいただきました。

堤：子どもたちが知っている曲も、井草さんのアレンジが入ると、ガラッと雰囲気が変わります。例えばボサノバ、ジャズ、ロックなど、知っていた曲の様相が変わると全く違う音楽になる、そのことに子どもたちは驚くんですよね。さらに、その人の話を聴きながら生で音楽に触れると、心に響きます。

教師たちも本当は、
もっと自由にいろいろなことを
子どもたちにやらせたいと思っていますから。

——アーティストの選定基準は？
小松：自身の経験が語れたり、子どもたちに伝えたい確固たるものを持つていたりする方を選んでいきます。学校側には、貴重な授業の時間を割り当てていただいているので、先生たちにも子どもたちにとっても、一生に一度の時間を提供することが、私たちの責務だと思っています。

——学校側にとって、「かすがいどこでもアート・ドア」を受け入れる際の課題は？
堤：まず謝礼の問題。アーティストを学校に招くには、支援がないと無理です。そして時間の確保。例えば井草さんの場合、音楽の授業に呼べばいいと思われるかもしれませんが、音楽の授業は基本的には週に一回。その中で、教師は音楽の成績もつけなければいけない。現場からすると「これ以上、時間を削らないで」というのは当然です。だから、総合的な学習の時間を使っています。

林：今、学習指導要領が変わり教育課程も見直されたでしょ。
堤：学力重視ですね。小学校では英語も入ってきていますし。
林：学力とは、いったい何なんだ、という話にもなりますよね。

美術教師として春日井市内の小中学校に37年間勤務。岩成台西小学校の校長だった2019年3月に定年退職。同4月から文化財団のエデュケーションアドバイザーに就任。現役時代から、美術作家としての活動も続けている。

美術とは本来、
生きていくための力を培うものなんです。

堤：なりますね。例えば美術で、何かを鑑賞して感想を書かせる際も、文章能力がある子と、ない子がいます。

林：琴線に触れていても、言葉にするのが得意なんですね。
堤：そうですね。それでも成績をつけなければならぬので、いかに心が伝わってくるのかを美術教師は大切にしています。

すべての子どもたちに、
生きていくための力を

林先生は長年、美術教師として、学校現場で活躍されてきました。林先生が考える、美術教育の意義とは？
林：今使っている教科書「美術2・3」

かすがい市民文化財団 エデュケーションアドバイザー 林幸秀



※1 かすがい どこでも
アート・ドア

“いつもの日常の中に、特別な「アート」が扉を開けてやってくる。そして、新しい世界への「入口」になる”そんな思いを込めて音楽家・美術家・俳優など、様々なジャンルのアーティストを市内の学校などに派遣。公演やワークショップをとおして「特別なアートの時間」をお届けしています。



※2 井草聖二

アコースティックギタリスト/作曲家。多様なテクニックを取り入れた緻密なフィンガーピッキング奏法の楽曲、演奏スタイルで国内外で高い評価を受けている。2010年 米カンザス州で開催された世界規模のギターコンテスト、39th Walnut Valley Festival に日本代表で出場。Top5に選ばれる。



夜コンに出演！
11/27 19:00- @春日井市民会館



※3 エデュケーションアドバイザー

文化財団の活動に対し、教育という観点からの助言をはじめ、一緒にワークショッププログラムを考案するなど活動は多岐にわたる。文化財団にとって、なくてはならない頼れる存在。

堤先生が語る

「かすがいどこでもアート・ドア」の思い



音楽ワークショップ 2017年10月12日
場所=勝川小学校
講師=トリオ・ノート

「私たちは演奏家だけど、聴いている人がいて、私たちは演奏家になれる。同じ空間を共にして一緒に音楽を作りましょう」というアーティストの言葉が心に残っているそう。間近で珍しい楽器の音が聴けるのは、アート・ドアの醍醐味です。

には「朝起きてから、夜寝るまでの美術」として、毎日使う食器やお気に入りの文房具は、どれも美術の表現の一つ、だから自分の身の回りの美術を探してみようと書いてあります。これ、すごくいいなと思いました。一人一人が日々、自分を磨きながら表現したり、何かを感じたりすることはとても大切です。絵画作品が美術だと思っていると全く違って、いろんなことの根本に美術があるんですよ。**美術とは本来、生きていくための力を培うものなんです。**

——同時に、実際の美術教育はどんな課題を抱えていますか？
林：小学校には、美術の専任教師がいません。専門外の図工で、どういう事を学ばせるかまで教師が意識するのは、ハードルが高い。とことんやるなら、教材研究をはじめ、かなり勉強しなければいけません。

——そこで、教育課程に沿った「プログラムが始動するわけです」がどこでも「アート・ドア」のプログラムが始動するわけです。

林：文化財団のエデュケーションアドバイザー（※3）として何がやるかと考えた際に、教科書と教育

課程を全部洗い出し、ワークショップを開発して、学校にお届けできればと思っただけです。

堤：それは大歓迎です。学校でアーティストがワークショップを行うんだけど、内容は学習指導要領に沿っているということですね。林：そうですね。例えばシューベルトの音楽を聴いてみましょうという授業があったら、ピアノに弾いてもらうとか。

堤：問題は学校の授業とアーティストとのスケジュールが合うかどうか…。

林：一年間という枠の中で、何が出るかを考える必要がありますね。

堤：一つ思うのは、名選手が必ずしも名監督ではないということ。優れたアーティストであっても、子どもたちに教えるテクニクは、また別であって、学校の教師とアーティストのチームテイキングで授業を進められれば素晴らしいものになると思いますね。

林：僕もそう思います。実は今、文化財団と一緒に、小学校の図工の授業で、実際にやってみようと、学校側と調整しています。

小松：アーティストと学校を橋渡しする文化財団も、先生と協力しながら、運用方法を模索しな

ればと痛感しています。課題は多い。でも、可能性もすごく大きいと感じていますね。

堤：教師たちも本当は、もつと自由にいろんなことを子どもたちにやらせたいと思っただけから。アーティストが学校教育の中にどんだん入ってくる風潮が生まれるといいですね。

林：学ぶべき到達点というのがはっきりしていないのが、芸術分野。そういう意味で何でもオーケーだし一人一人が違っていいということ、を、体験として伝えられるといいなと思っています。

変わりゆく社会と共に、私たちが変わってゆくこと

——文化財団では、学校との連携とは別に、誰でも参加できる「みんなの美術部（※4）」という取り組みを行っていて、10代から80代まで、様々な年齢の方に参加いただいています。

堤：それはいいですね。作品には、その人の生きてきた人間性が見えにじみ出るでしょ。年配の方の作った作品を見て、子どもたちは「すごいな」と感じるんじゃないかな。

小松：作るだけでなく、お互い作った作品を鑑賞する時間も大切にしています。

堤：それは楽しいですね！
林：「みんなの美術部」は、継続的にやっています。部員は、好きな回に参加できる。「また会ったね！」なんて出会いも生まれる。

小松：回を重ねるごとに、顔見知りになった部員も増えてきました。

堤：部員の心得（※5）がいいですね。私が読んだ「13歳からのアート思考」（末永幸歩、ダイヤモンド社、2020年）という本にも、こんなことが書いてありました。「激動する複雑な現実

世界の中で、自分のものの見方・考え方を育てる人こそが、自分なりの答えを生み出している」とって。常識にとらわれず、自分なりの探求をし続けること、それは人生を歩んでいく力になると思うんです。

林：子どもだけでなく多くの人のとって、芸術に関わって生きることは大切だと感じますね。だからこそ、いかに継続できるか、です。

堤：それは「どこでもアート・ドア」にも言えることで、欲を言えば、継続的に派遣してもらえるといいと思っています。1年に1回の派遣でも十分にありがたいですが、生徒にとっては、単発なんですよ。少しワガママかな？



かすがい市民文化財団 プロデューサー 小松淳子

先生たちにも
子どもたちにとっても、
一生に一度の
一時間を提供することが、
私たちの責務だと思っています。

林：でも、時間の無い中で、現場の先生たちを説得するのも大変じゃないですか？アート・ドアの打ち合わせをする時間をどう生み出すのかさえ、躊躇する先生もいると思います。

堤：そういう時でも、活動の意義と、素晴らしいと思うことをきちんと説明すること、それが大切だと思います。

小松：今後、アーティストが学校でできることが増えていくのではなにかと思っています。と同時に、劇場の在り方も変わっています。約50年前に春日井市民会館ができたときは、ホールと楽屋があるだけでした。でも、最近の劇場には練習室はもちろん、大道具が作れる創作室や、食育に力を入れる劇場もあります。劇場や美術館の役割は、これまでの鑑賞型から、いろんな活動をしたり学んだりする場所に变化しているのです。遠くない未来に、新しい春日井の劇場ができることを願っていますが、子どもたちの教育現場として、市民のサードプレイスとして、未来のための姿を今からいろんな人たちと考える必要があると思っています。



※4 「みんなの美術部」は、誰でも参加できる部活として、2019年に文化フォーラム春日井を起点に誕生。活動内容は幅広く、絵画や彫刻、陶芸など伝統的なものから、イラスト、デザイン、生活文化まで、様々なジャンルの体験ができます。

※5 「みんなの美術部」部員の心得

その一

100人いれば
表現は100通り。
一人ひとり違った
いいところに注目！

その二

失敗を恐れず
冒険する！

新しい創作方法や
画材に挑戦すると、
世界が広がるはず。

その三

「上手」じゃなくても
大丈夫！
目標は、自分が
「おもしろい」と思う
ものに出合うこと。



「みんなの美術部」担当スタッフ=浅井南

情報誌FORUM PRESS vol.94より抜粋

〈活動風景〉



「10秒絵クササイズ」では、短い時間で直感的に絵を描く新感覚デッサンに挑戦。



「自然の木を使って、大きな立体作品をつくらう」みんなで協力して作品を作りました。



2020年の夏の遠足「やきものをみて、つくったのしもうー」では、愛知県陶磁美術館へ



「岩絵具で果物・お花を描こうー」の「コマ」部員同士の交流も楽しみのひとつ。

2020年後期

「みんなの美術部」部員募集中!

色鉛筆の特徴や表現方法を学んだり、樹脂粘土で本物そっくりの和菓子作りに挑戦したりと楽しいラインナップがそろっています。

応募詳細はかすがい市民文化財団のホームページまで。

応募の締切は **11/28(土)17時まで**

家族写真

マッキーの場合 写真=浅田政志
テキスト=マッキー

星を買った話

私は元来旅行…いや、旅が好き。定年を目前にして、うつ状態となり、仲間は引き留めてはくれませんが、退職した。で、家でジッとしていた。「いや、これではダメだ。何かしないとダメになる」。そこで、旅に出ることを決意した。一日や二日の旅ではなく、各地で暮らすような旅がしたい。幸い、春日井は日本のほぼ真ん中。よし！今年北へ行ってみよう。次の年は南だ。十月には年に一度の医者通いが決まっているし、車中泊旅だから冬はバス！気ままな旅がいい。40ページの日本地図を一冊持って、旅に出た。この本には、高速道路の距離や料金、大都市の拡大図、離島なども載っている。修学旅行や会社の慰安旅行で、大抵のところは行っているから、よし！行っただことのない所、走っていて目についた所、そういう所を回ってみよう。高速を利用することなく、のんびりと下道を走った。「狭い

日本、そんなに急ぐことはないさ」とタカをくくっていた私。いやあ、日本は広いわ。暮らすような旅なんて、悠長にはとても行かなかった。実は正直に言うとうと、この旅の経験が有ったから、私は私そのままいられたし、今の私でいられた。そうでなかったら、どうだろう。もしかしたら、そこで野垂れ死んでいたかもしれない。このことは今でもそう思う。さて本題。実は私、この旅の途中、星を買ったんです。場所は北海道の初山別村。「この先に天文台があります。是非お立ち寄りください」。案内を見て、ごくごく軽い気持ちで行ってみました。私には、とうに亡くなっている大好きなじいちゃんがいる。私はまだ二十代の頃に亡くなった。思い出はたくさんたくさんあるけれど、形に残る形見がない。よし！じいちゃんのために、星を買って

みよう！「たくさんの方が買っているから、肉眼はおろか望遠鏡でも見えないような遠いところの星になりますけど、その星に名前を付けてください」と天文台の人は言った。見えなくなつて構わないさ、宝物ができたぞ！やったね！星につけた名前は、もちろん、じいちゃんの名前。後日、証拠品として、星の番号と「Makawashinkichi」と名付けた星の名前が刻印されたキーホルダーが送られてきた。旅は終わったけれど、おかげさまで、毎日、楽しく暮らしている。この写真は、カメラマンの浅田政志さんが撮ってくれたもの。演劇×自分史プロジェクトに3年前から参加していたことが縁で、まさかのモデルデビュー。成人式のときの着物を着たのも、私の半生を聞いた浅田さんのアイデアです。幸せな私！すべての出会いに感謝！

タイトル:「真木家」
制作年度:2020年3月

小学校1年生から4年間、親代わりだったじいちゃんと過ごしたマッキーは、じいちゃんが大好き。成人式を迎えた年、じいちゃんは病に伏せて入院していました。晴れ姿を一目見せようと会いにいっても、じいちゃんは将棋に夢中。マッキーを見ようとしません。病室を飛び出すマッキー。じいちゃんは慌てて追いかけますが、それがじいちゃんとの最後の別れとなったそうです。



コロナ禍で延期となりましたが、日程を改めて開催します！

マッキーの星を買ったエピソードも演じられる予定だった第3弾「春よ恋」。上演に向けて、調整中です！

演劇×自分史プロジェクト
第3弾(振替公演)
2021/2/20(土)21(日)
@春日井市民会館

マッキーの家族写真は当初、春日井で初お披露目の予定でしたが、今年12月に大阪にて展示されます！

浅田政志写真展
2022年に文化フォーラム春日井・ギャラリーにて開催予定です。



2020.06.14

緊急事態宣言解除に伴い、かすがい日曜シネマ「グリーンブック」から、主催事業を再スタート。文化フォーラム春日井・視聴覚ホールで通常144席販売するところ、45席を販売し、完売。久しぶりの本番に、スタッフ一同、緊張の一日でした。

2020.04.22

東京在住の「にんぎょひめ」出演者、to R mansionにオンライン取材。衣装を着けて応じてくださいました。8月8日の本番日、PCR検査などの対策を行った上で、公演を開催。ギリギリまで迷われて来場を断念された方も、当日駆け込みでお越しくださった方もいらっしゃいました。

日々の、記録

「人はなぜ、作り続けるのか。
その営みから、何を感じるのか。」
コロナ禍で出会った人の
声を採録しました。

今年の春は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設の利用休止や公演の中止、延期が相次ぎました。5月26日、愛知県独自の緊急事態宣言が解除されたことをきっかけに、わたしたち文化財団をはじめ、市民のみなさまの文化活動も、段階的に再開の道を辿っています。今までの当たり前が通用しないコロナ禍は、まだ少し続きそうです。そんな中でも、人々の「何かを生み出す」という営みは続いてきました。

2020.08.22

「古関裕而コンサート わがまち春日井」を春日井市民会館で開催。公演前に、全職員で楽屋や座席を消毒、舞台にはアクリル板を設置。出演者とお客様の距離を十分にとった上で、385名の来場者をサーマルカメラと共にお迎えしました。

2020.06.20

「みんなの美術部」の再開。講師も参加者もスタッフも感染症対策を徹底しながら、その中で集い、学びあい、刺激しあうことの尊さを感じるひとときとなりました。「久しぶりに集まれて楽しかった!」と、参加者からも喜びの声をいただきました。

2020.8.15-23

あの日の、出会い

春日井市民美術展覧会



大島雅子さん 写真部門 市長賞受賞

大島さんが自分専用のカメラを買い、写真を始めたのは、70歳の4月。それから9年。79歳にして、写真部門で市長賞を受賞しました。

「写真は、絶対に誤魔化しができない。だから自分に正直になれます」と、写真の魅力を語る大島さん。写真サークルに所属し仲間と写真撮影を楽しむ傍ら、一瞬の感動を求め、カメラを持って一人で出かけることも。大島さんが写真に惹かれる理由は、とても明確。「動くものを撮るのが好き。動くものの、一瞬を引き出したいんです。人間には、すごく長い人生があるけど、写真に写るのは本当にその瞬間だけ。その時間を、撮りたいんです」

洋服を自作したり、料理を楽しんだり。写真がきっかけで、改めて、日常に流れる時間のありがたみにも目を向けるようになったそう。何事にも好奇心を持ち、毎日を楽しみ過ごす姿に、被写体の一瞬を捉えようと、ファインダーをのぞく大島さんの姿が重なります。



塚本将慈さん 彫塑工芸部門 市長賞受賞

大阪芸術大学の大学院で彫刻を学ぶ塚本さん。コロナ禍の影響で、地元・春日井に住みながら、作品を作る日々を送っていました。出品予定の展覧会が中止になる中、自分のルーツである春日井市の市民美術展覧会を知り、応募しようと思ったそう。「普通だと思っていた日常が欠落してしまったという意図をもって今回の作品を作りました」と、コロナ禍を意識した制作秘話を教えてくださいました。

中学生の頃、教科書でロダンの「考える人」の写真を見たことがきっかけで、彫刻の道へ。「美術に関わっていなかったら、知ることがなかった物の見方や技術を得ることができたので、美術をやっていると、もっと良いものを作りたいという気持ちになるんです」

「欲を言えば、将来はロダンのような素晴らしい彫刻家になりたいです」と夢を語る姿の清々しさ。春日井発の若き才能に、エールを！

2020.07.05

あの日の、舞台裏

春日井児童合唱団定期演奏会



7月の本番当日の様子。ずっと一緒に練習してきたという信頼が、舞台上立つメンバーを支えました。



9月某日、練習会場にお邪魔しました。歌うことで、驚きや笑い、楽しみを生み出す子どもたちの姿に、心が洗われていくようでした。

「定期演奏会は1年間の練習の成果を発表する場所です。3月の定期演奏会が中止になったとき、子どもたちが何を頑張ってきたのか分からなくなるのが心配でした。達成感を味わうことは、次に進むためにも大切なことだと思えます」と語る石黒恵さん。自身も児童合唱団の出身で、

今は合唱団の運営に徹しています。定期演奏会の延期先が7月に決まった時、子どもたちはとても喜んでいました。しかし、新型コロナウイルスの対策を講じながらの練習は容易ではありませんでした。「今まで子どもたちは、隣同士で呼吸を聞きながら、先生とアイコンタクトをとって練習してきた

3月に開催予定だった春日井児童合唱団の定期演奏会もコロナ禍で中止・延期となった公演のひとつでした。施設の利用中止期間を経て、迎えた7月5日。子どもたちの姿は、市民会館のステージの上にあります。子どもたちの歌声が響いた、あの日の舞台裏をご紹介します。



春日井児童合唱団 運営担当の石黒恵さん

ました。それが、ソーシャルディスタンスをとることで、みんなと距離がでる。先生も遠い。戸惑うことも多かったと思います。マスクを着けて歌わなければならない場面では、子どもたちの「マスクを着けても苦しくないよ、平気だよ」という声に救われたと言います。

定期演奏会当日。施設のガイドラインにそって、客席の定員を半数に減らしたり、来場者を検温したりと、初めてづくしの運営に戸惑うことも多かったそうです。「運営側で意見が割れたこともありました。でも、その度に市民会館のスタッフの方が真摯にアドバイスをしてくれたので、私たちも方針を決めていくことができました」。

ステージ上の子どもたちは、距離をとり、みんなマスク姿。それでも、歌声はしっかりと客席に届いていました。歌うのが何より大好きな子どもたち。

定期演奏会が終わった今も、感染対策しながら練習を続けています。

公演情報 /
とっておきの
クリスマスコンサート
2020 無料
12/6日 15:00~
@春日井市民会館

2020.06-08

あの日の、感想

アンケートより抜粋

6月から少しずつ段階を踏んで、再開したさすがに市民文化財団の主催事業。来場したお客さまからは、温かいお言葉をいただきました。



■上映ありがとうございます。緊急事態宣言解除後、初のお出かけとなりました。このタイミングで観られて良かったです。いろいろと考えさせられました。
40代／女性



■笑いありドキドキあり。子どもの為にとったチケットですが親の私まで楽しめました。コロナ禍で多くの制限がある中、感動を届けて頂き演劇やエンターテインメントの必要性を感じました。これからも頑張ってください。40代／女性



■指揮者、歌手の方の急な病気で代役になったにもかかわらず、すごい集中力で本当に感動しました。戦前、戦後の懐かしい曲ばかり、子ども時代のみんな貧しいけれど明るく過ごしていた頃を思い出しました。コロナ禍で元気がでない日々だったけど、久しぶりに胸が熱くなり、暑い夏も前向きに過ごします。ありがとうございました！80代／女性

歌の力でエールを!!

Report.407
8.22
SAT



[今回の担当レポーター]
山本江利

古関裕而コンサート
「わがまち春日井」

◎春日井市民会館



新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、様々な公演が延期や中止となるなかで、久々のコンサート鑑賞でした。席に着くと、気持ちがいつ以上に高揚します。朝ドラ「エール」の主人公モデル、古関裕而さんが作曲した曲を歌やオーケストラで演奏するコンサート。プログラムには馴染みのない曲が並んでいました。そんな中、聞き覚えのある野球の応援歌や、「とんがり帽子」も演奏されました。「とんがり帽子」は昔、祖母が口ずさんでいたな…とその光景がまぶたに浮かび、懐かしい気分になりました。会場では当時のことを思い出し、楽しい気分になって手拍子をとったり、涙ぐむ方もいました。改めて、歌の力の、そして多くの曲を作曲した古関裕而さんの偉大さを感じました。観客の方やスタッフの方が対策をしながら、コンサートを開催することができました。暗いニュースの多い現在、「エール」をもらい、楽しいひとときを過ごせたことに感謝したいと思います。

フォーラムプレス
レポーターによる
「わたしレポート」

MY REPORT

他のレポートもHP
で紹介中! → 財団
スタッフDIARY



市民ボランティアが
かすがい市民文化財団の
アフレコを紹介!

感動は優しさ
と情熱の中に

Report.405
8.8
SAT



[今回の担当レポーター]
紀瑠美

親子のためのファミリーシアター!
to R mansion
「にんぎょひめ」

◎春日井市東部市民センター



to R mansionの「にんぎょひめ」は、驚きと感動の連続! 海の中の表現も見事で、人魚姫は本当に泳いでいるようでした。アクロバティックな動きやコミカルなダンスなど多様な表現にびっくり。サーカスマジックショーのような場面もありドキドキしました。光と闇のトリックを使った照明演出も素晴らしかったです。双子の人魚姫がお互いを思いやるオリジナルストーリーに涙する人も。人魚姫と王子のラストシーンは美しく感動的でした。子どもを喜ばせる工夫も盛りだくさん。お気に入りのぬいぐるみを隣の席に座らせて観劇できるのは、コロナ対策で客席数を減らした時期ならではの企画です。開演前に「赤ちゃんは泣くのが仕事。優しい気持ちでいましょうね」と「ばあや」が言うと、劇場は優しさに満たされました。カーテンコールで「かすがい市民文化財団と東部市民センターの決断と対策があり上演できた」と出演者達が感謝を表すと、客席から盛大な拍手が響きました。

文化情報プラザ
からのお知らせ

チケット売り場として、みなさまに親しまれている文化フォーラム春日井2階・文化情報プラザ。その奥にある空間をご紹介します! 雑誌ラックには、図書館には置いていない雑誌がズラリ! バックナンバーもお読みいただけます! さらに、「このマンガを読め!」で紹介したマンガの一部をお読みいただけるコーナーも新設! ぜひお立ち寄りください☆



FORUM PRESS 100号
読者アンケート

読者アンケートへの
回答や回答者プレゼント
応募については、
下のQRコードから



いつもFORUM PRESSをご愛読いただき、ありがとうございます。今後もより読み応えのある誌面づくりをしていくため、参考にさせていただきます。率直なご意見やご感想をお待ちしております。

回答者プレゼント
抽選で次の1~2のいずれかをプレゼント!!

かすがい日曜シネマ
「ストーリー・オブ・マイライフ／わたしの若草物語」
ペアチケット

- 1 12/6(日)13:30~
春日井市東部
市民センター上映分
2名様
- 2 1/31(日)13:30~
春日井市民会館上映分
2名様

回答者プレゼントの応募締切は、**2020/11/25(水)**
たくさんのご応募、お待ちしております。
※当選は発送をもって代えさせていただきます ※当選者への発送は12月上旬の予定です
※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、上映日が変更になる場合があります



第81回
かすがい日曜シネマ
KASUGAI 81 CINEMA
セルリアや情景を
イヤホンで案内する
シーン・ボイス
ガイド付
協力:ボイスケン

「ストーリー・オブ・マイライフ
～わたしの若草物語～」
12/6 @ 13:30 ~ @春日井市東部市民センター
1/31 @ 13:30 ~ @春日井市民会館

2019年 / アメリカ / 135分

詳細情報は、奥表紙で Ticket Guide

**それぞれの道
それぞれの幸せ**

時代を超えて読み継がれる名作小説『若草物語』。映画版でも、長女メグ、次女ジョー、三女ベス、四女エイミーの四姉妹が、夢への努力、悩み、決断を通して1人の女性へ成長していく様子が描かれています。

映画は、彼女たちの少女時代と、大人になった「現在」を行来しながら進みます。各々が思う「幸せ」を全力で夢見る少女時代の彼女たち。泣き、笑い、止まらないおしゃべり。賑やかで楽しそうな毎日です。けれど、現実はいまうまうまではないもの。エイミーが絵の才能に限界を感じ、「画家の夢を諦めるか悩む場面では、ワガママ娘だった彼女の大きな成長に気づかされます。そんなエイミーが、喧嘩ばかりしていたジョーの文才を信じ、中々花開かない彼女の夢を応援するシーンでは、姉妹の絆を感じて涙。お金より愛、愛より夢：様々な選択をしていくエピソードの中に、自分を重ねずにはいられない瞬間があるはずです。あなたが共感するのは、一体誰でしょうか?

テキスト: 牧原由佳

プロデューサー
小松淳子の
このマンガを読め!

COMIC × CINEMA
vol.38
“私の物語”を描いたマンガ

人生を振り返って描いた
エッセイ漫画をご紹介します。

親友・岡崎さんとのエピソードを描いた「岡崎に捧ぐ」は傑作!是非こちらも。

この町ではひとり
◎山本さほ / 小学館

まだ1話も描いていないときに決まったアニメ化のエピソードにはビックリ!

**ときめきまんが道
-池野恋40周年本-**
◎池野恋 / 集英社【全2巻】

大ヒット漫画の誕生秘話

「ときめきトゥナイト」と言えば、ある年代のりぼん読者にとっては、知らない人はいないという程の大ヒット漫画です。私自身も次号が楽しみで仕方がなかった小学生時代が蘇ります。この本は作者の池野恋さんが、自身の人生を振り返って描いたエッセイ漫画です。面白いのが、彼女は全く漫画家になるという夢は持っていなかったということ。憧れの職業だけに現実感が無い…これは共感する人も多いのではないのでしょうか。そんな彼女がどうやって大ヒットを生み出す漫画家になったのか。一条ゆかり先生、水沢めぐみ先生など、錚々たるりぼん作家も登場し、懐かしくときめいてしまいます。

辛かったあの日々

Webで連載し大反響を巻き起こした『岡崎に捧ぐ』を描いた山本さほの最新刊。神戸に住んでいた時の暗黒の1年間を描いた記録です。何をやってもうまくいかない山本さんの閉塞感と鬱屈がひしひしと伝わります。ひとり暮らしの方には是非読んでほしい作品です。



**春日井市に根差した活動を行う
若手音楽家を募集します!**

地域に根差した音楽家を育てることを目的に、当財団が若手音楽家を3年間にわたり活動支援します。
文化フォーラム春日井で開催する昼コン&夜コンやワンコインコンサートに出演したり、市内の学校、保育園、福祉施設でアウトリーチ活動を行ったり。当財団と一緒に、向上心を持って活動に取り組んでいただける方を募集します。
応募締切は、11/15(日)【必着】です。応募詳細や若手音楽家支援事業については、かすがい市民文化財団のホームページをご覧ください。



施設の魅力再発見! 改修工事はじまります!
イラスト=スタッフ 森田完幸



開館より20年が経過した文化フォーラム春日井。これからも、みなさまに快適にご利用いただくため、11月から館内の一部で改修工事を行います。
改修工事の一番の目玉は、文化フォーラム春日井の屋上・スカイフォーラムです。選り抜かれた人工芝や植木により、緑あふれる庭園空間を演出! 机や椅子も新しく設置し、飲食もできるように。小さなお子様から、大人までみんなでくつろげる癒しの空間を目指します。7月にはお披露目予定です! お楽しみに☆



リアルなようで架空、
レトロのようで新しい!

スタッフ=松井和代

**杉山新一
原画展 懐かしき未来**

子ども向けの学習雑誌や、科学雑誌、図鑑などに掲載するイラストを描き活躍した画家・杉山新一さんの原画展を開催します。1970年代から画家としての活動を始めた杉山さん。ロマンあふれる空想を描き、昭和の少年たちに夢を与えました。実は、杉山新一さんの名前が世に知れ渡ったのは亡くなった後。娘さんがSNSに父の遺した作品を投稿したところ、元・少年たちの目に留まり、「懐かしい!」「美しい色使い!」と、一躍話題の人となりました。よく見ると、機体の一部がスケルトンになっていて内部の構造が緻密に描かれるなど、遊び心がいっぱい。原画ならではの魅力を、間近で味わってみてください。展覧会の詳細は、かすがい市民文化財団のホームページをご覧ください。



どこか切なげに見える、恐竜の表情! 心を奪われます

11/28(土)~12/20(日)

@文化フォーラム春日井・ギャラリー

期間限定販売 杉山新一さん作品の絵はがきを、会場で販売します!



**ギャラリーライブvol.3
柳下美恵のピアノdeシネマ**

19世紀末に誕生した映画は、音声入りの映画が登場するまで、生演奏とともに上映されてきました。今では、「サイレント映画」とよばれるそれらの作品をピアノの生演奏と合わせてお届けします。
出演は2017年の第1回ギャラリーライブにも登場したサイレント映画ピアニストの柳下美恵さん。サイレント映画を知りつくした柳下さんの映画解説も必聴です。
会場は、展覧会場として使われるギャラリー。映画館とはひと味違った雰囲気の上映空間もお楽しみに!

2021/1/30(土) 14:00~

@文化フォーラム春日井・ギャラリー



**JAPAN LIVE YELL project @AICHI
あいちオーケストラフェスティバル**

ジャパン・ライブエール・プロジェクトは、人とライブのエール交換を目的に日本全国で行われるプロジェクト。春日井ではオーケストラの生演奏が、なんと500円! セントラル愛知交響楽団が、組曲「くるみ割り人形」(チャイコフスキー)や、交響曲第9番 小短調「新世界より」(ドヴォルザーク)といった名曲を披露します。指揮は古谷誠一さんです。チケットは11/7(土)より文化フォーラム春日井や春日井市東部市民センターで販売します。詳しくは裏面のチケットガイド、または、かすがい市民文化財団のホームページをご覧ください。

12/2(水) 18:30~ @春日井市民会館

場所を示す言葉が、英語にはいくつかあります。「プレイス」「スポット」「スペース」「ロケーション」。この誌面の冠である「フォーラム」も場所を示す言葉の一つなのですが、他の言葉と違ってどんなイメージなのだろう?と考えてみました。辞書を調べると「古代ローマ市にあった集会用の広場」とか「公開討論の場」と出てきます。
そんな折に、たまたまミヒヤエルエンデの名作『モモ』を読み返し、いろんなヒントが見つかりました。モモは出自がわからない小さな女の子で、市街地の廃墟となった円形劇場に住み着きます。モモは何をするでもないので、近所の人には無くてはならない存在になっていきます。何故か?それは、相手の話を聞くことができるからなのでした。
自由にいろいろな話ができ、それを聞く相手がいる場所。モモの住む円形劇場、それがフォーラムの意味ではないかと思っただけです。人は何かを語ることで、はじめて自分なりの考えや解決策が生まれてくると言われます。誰かとシェアして初めて、その言葉は真実となる、そんな場所がフォーラムであればいいなと思いました。

FORUM PRESS 100号では、「フォーラム」に関わってくださった方の言葉を再掲したり、日々思うことを伺う中で、改めてこのコロナ禍の時代に思いを馳せることになりました。多くの方に感謝を申し上げます。
次号以降は、この時代の紙媒体ということ、サイズを少しだけ小さくし、年間6回発行を4回に変更します。紙とwebをうまく使いわけていければいいなと思いつつ、紙媒体だからこそお届けでき

100号記念

編集部だより

フォーラムの意味
テキスト=山川 愛

今号の特集「いま、芸術ができること」で、林幸秀先生に美術の教科書を紹介していただきました。この中学校の美術の教科書の冒頭には、谷川俊太郎さんの「うつくしい!」という詩が掲載されています。「うつくしいもの、それはなにも特別なものじゃない。毎日、毎日、わたしたちは、気づかずに、いろんなうつくしいものに取りかまわられてくらしる。」引用||文・谷川俊太郎「美術」|光村図書出版株式会社2020年 この詩は、1980年代に出版されたブリタニカ絵本館「コマスというシリーズ本第25巻「うつくしい!」に掲載されていたものの一部です。最後はこのような詩で締めくくられます。「ゆつくりじかんをかけて、いろいろなものをみつめてみよう。うつくしさをみつけるみちは、そこにしかない。」
先述した『モモ』には「時間とはすなわち生活です。人間の生きる生活は、その人の心の中にあるのです」引用||岩波書店1996年と書かれています。「モモ」に出てくる灰色の男たちは、人々がいろんな時間や思いを共有することが豊かであることを知っていて、時間を奪っていききました。当然、美しさも無くなりました。
私たち一人ひとりの中にモモも灰色の男も、どちらも存在しています。時間とは生命そのものの豊かさ。私たちはこのコロナ禍において、誰もが自分の中に持っているモモを、あらためて取り戻そうとしているのかもしれない。今回のFORUM PRESSを作る過程で、いろんな方の声を聴き、強く思いました。

チケット購入方法

かすがい市民文化財団ホームページ内
「オンラインチケットの予約・購入」から予約

WEB

文化はかすがい

検索



- Web会員登録(無料)が必要
- PiPi会員は会員IDとパスワードでログイン

TEL

電話で予約

●一般の方(9:00~21:30、チケット一般発売初日は10:00~)

☎0568-85-6868

●PiPi会員(PiPi先行予約期間中の9:00~17:00)

☎0568-85-6078

窓口

窓口で直接購入

●文化フォーラム春日井2階・文化情報プラザ
(休館日を除く9:30~17:15)

●春日井市東部市民センター2階・事務室
(年末年始を除く9:30~12:00、13:00~17:00)

窓口購入以外のチケット引取方法

セブン-イレブン

お近くのセブン-イレブン店頭で引取

※チケット代金の他に、決済手数料(1件につき¥165)と
発券手数料(チケット1枚につき¥110)が別途必要

代引

郵便局「代金引換サービス」でご自宅に郵送

※チケット代金の他に、代金引換手数料(¥570)が別途必要

※掲載価格はすべて税込です。※一般発売初日は、電話・Webからの予約・購入は10:00からとなります。電話のおかけ間違いにご注意ください。※車いす席をご希望の方は窓口または電話でお問い合わせください。※支払・引取方法によって各種手数料がかかります。※予約済・購入済チケットのキャンセル・払い戻しはできません。※前売り完売の場合、当日券の販売はありません。

学生の特券

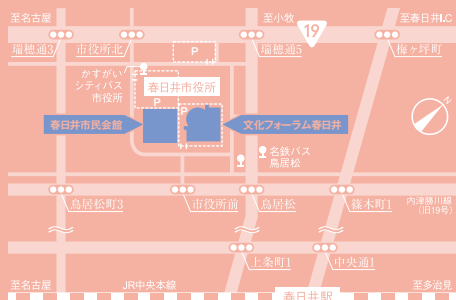
対象者は優待価格でチケットをご購入いただけます。
※詳しくは財団ホームページへ。

文化フォーラム春日井／春日井市民会館

www.kasugai-bunka.jp Follow us @kasugai_bunka

486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44

【休館日】月曜日(祝休日の場合は翌平日)、12/29~1/3



交通のご案内

JR中央線
「春日井駅」北口より
・名鉄バス「鳥居松」下車すぐ
・徒歩20分
・無料レンタサイクル5分
(日・祝休み)
かすがいシティバスで
お越しの方
・「市役所」下車すぐ
※駐車場は混雑が予想されます。なるべく公共交通機関
や乗合せをご利用ください。

【かすがい市民文化財団からのお知らせ】



新型コロナウイルス感染症の
感染状況によって内容が
変更になる場合があります。

最新情報はかすがい市民文化財団のホームページでご確認ください。

発売中



第7回ワンコインコンサート

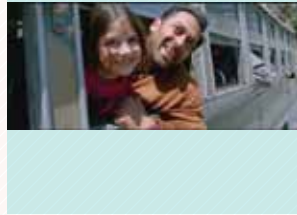
Trombone Ensemble Gaio

11/1(日) 15:00~

◎文化フォーラム春日井・視聴覚ホール
【料金】●¥500(PiPi会員同額) ●全自由席、当日券同額、未就学児入場不可
※当日券は、14:00より会場入口にて販売いたします。

文化フォーラム春日井2階・文化情報プラザ

発売中



かすがい日曜シネマ(振替公演) バジュランギおじさんと、小さな迷子

11/22(日) 19:30~ 21:40~

◎春日井市東部市民センター

【料金】●¥800(当日券¥1,000) ●PiPi会員¥700(当日券同額) ●小中高生¥500
●全自由席、未就学児入場不可
※セリフや情景をイヤホンで案内する音声ガイドあり。
(2)の回のみご予約の際にお申し出ください。

WEB TEL 窓口 学生の特券

入場無料



杉山新一

原画展「懐かしき未来」

11/28(土)~12/20(日)

10:00~17:00(入場は16:30まで)

◎文化フォーラム春日井・ギャラリー
※月曜休館

11月発売



●一般発売 11/7(土)~

JAPAN LIVE YELL project @AICHI あいちオーケストラフェスティバル

12/2(日) 18:30~

◎春日井市民会館

【料金】●¥500 ●全席指定、未就学児入場不可

出演：セントラル愛知交響楽団

指揮：古谷誠一

主催：文化庁、公益社団法人日本芸術家団体協議会、愛知県芸術劇場、公益財団法人かすがい市民文化財団

WEB TEL 窓口

11月発売



●一般発売 11/1(日)~

かすがい日曜シネマ ストーリー・オブ・マイライフ /わたしの若草物語

12/6(日) 13:30~ ◎春日井市東部市民センター

2021/1/31(日) 13:30~ ◎春日井市民会館

【料金】●¥800(当日券¥1,000) ●PiPi会員¥700(当日券同額) ●小中高生¥500

●全自由席、未就学児入場不可

※セリフや情景をイヤホンで案内する音声ガイドあり。
ご予約の際にお申し出ください。

WEB TEL 窓口 学生の特券

12月発売



ギャラリーライブvol.3

柳下美恵のピアノdeシネマ

2021/1/30(土) 14:00~

◎文化フォーラム春日井・ギャラリー

WEB TEL 窓口 学生の特券